

## Q 8 教育相談主任はどのような役割を果たせばよいのですか。

教育相談主任は、校内の教育相談体制を充実し機能させるためのリーダーであり、調整役（コーディネーター）です。全校的な視野に立ち、生徒指導部や関係教職員との情報交流に心がけ、協力的に指導できるよう調整を行うなどの動きが求められます。情報と人を結びつけ、機能的な動きを創り出す役割が求められるのです。その結果として、不登校対策の充実が促進されます。

不登校の要因や背景は多様です。このため、学校の取組の強化のみならず、ネットワークによる支援が求められています。それだけに、対応の中心となる教育相談主任の役割を明確にしておく必要があります。

### 1 校内の教育相談体制充実のための中心的な役割を果たす教育相談主任

- (1) 校内における不登校児童生徒の学級担任や養護教諭、生徒指導主事などとの連絡調整
- (2) 不登校児童生徒の状況に関する情報収集
- (3) 不登校児童生徒の状況に合わせた学習支援等の指導のための計画づくりに関する学級担任等との連携
- (4) 相談室の管理と運営
- (5) 支援計画の実現のために学校外の関係機関との連絡・調整
- (6) 不登校児童生徒の支援計画や個別指導記録等の管理
- (7) スクールカウンセラーや教育相談員等の学校外の人材や、教育支援センター（適応指導教室）や民間施設等学校外の関係機関との行動連携のために管理職や生徒指導主事と連携した連絡調整

### 2 情報の収集管理と活用

不登校対策に関する次のような情報を収集整理しておくといよいでしょう。

- (1) 関係資料や文献の収集と必要に応じた情報提供  
例 ・文部省及び文部科学省の通知文 等 ・県、市町村教育委員会からの通知文 等  
・教育相談や不登校に関する文献 等
- (2) 市町村教育委員会で実施している不登校対策事業の現状  
例 ・スクールカウンセラーや専門医への相談  
・市町村教育委員会に配置されている教育相談員 等
- (3) 国や県の諸対策事業とその利用方法  
例 ・スクールカウンセラー設置事業 ・能力開花支援事業  
・学校・地域保健連携推進事業 等
- (4) 身近にある関係機関  
例 ・教育支援センター（適応指導教室） ・子ども相談センター  
・精神科医や小児科医 ・カウンセリングルーム  
・生活支援センター ・民間のフリースペース 等

学校の教育相談機能が十分に果たされるためには、校内外の連携が重要です。教育相談主任は各関係機関や関係者との連携役であり、優れたコーディネーターでありたいものです。